

# 26PB-am135S

サリドマイド被害者の補償の比較検討：日本、カナダ、英国を事例に

○市村 太秀<sup>1</sup>, 堀内 正子<sup>1</sup>, 串田 一樹<sup>1</sup>, 佐藤 嗣道<sup>2</sup> ( <sup>1</sup>昭和薬大, <sup>2</sup>東京理大薬 )

【目的】日本では、サリドマイド薬害訴訟解決から今年で44年目を迎える。2015年5月、カナダ保健省はサリドマイド被害者の生存者に対し再度年金を支払う事を発表した。この記事を読み日本、カナダ、英国のサリドマイド被害者に対する補償及び福利厚生の内容について興味を持ち調査する事とした。この調査を通して各国のサリドマイド被害者に対する政府・社会の対応を比較検討し、今後日本に必要な施策とは何か、また将来の薬剤師そして一人の人間として被害者にどのようなことができるのかについて提言する。【方法】公益財団法人いしずえ、The Thalidomide Victims Association of Canada、The Thalidomide Society (英国)のHP上の情報及び当時発刊された新聞記事等を基に調査を行った。【結果・考察】金銭面について日本は1人あたり総額1500~2000万円、カナダは1人あたり総額\$25,000~\$100,000、英国は£20,000を原資に被害者429人に対し年金を給付しており、金額について各国で相違が見られた。その他の支援活動としては、日本：補装具や健康に関する相談、他国の被害者との交流、薬害防止教育や広報活動。カナダ：リハビリを実施する宿泊プログラムの提供、他国の被害者との交流、学生やマスメディアに対する資料提供等。英国：資金集め、オーラルヒストリーの作成等。以上の比較から、日本政府にはさらに補装具購入に対する費用補助やカナダのようにリハビリを実施するプログラムの提供等、より積極的な支援が求められる。現在もサリドマイド薬害の後遺症で多くの被害者が苦しんでいる。薬害の悲劇は二度と繰り返えされてはならない。医療専門職の一員として、薬害の証人である一人一人の被害者の言葉と人生に寄り添い、多くの国民や後の世代にこの事実を伝えると同時に薬害防止のシステム構築に取り組む責任があると考えている。